Osaka University Knowledge Archive

Title	センターだより　大阪大学大型計算機センターニュース　第56号（Vol.14　No.4）
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1985, 56, p. 1-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65634
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

昭和60年度利用申請について

○ 昭和60年度計算機利用申請書の取り扱いについて

昭和６０年度の利用申請には「継続申請」と「新規申請」の２種類があります。

1。継 続 申 請

継続申請とは同じ研究課題で６０年度も引き続き利用することです。この申請をすると課題番号、パスワード及びファイルは継続して利用することができます。

ただし、次の場合は継続できませんので「新規」として申請して下さい。

イ．所属部局に変更がある場合

ロ。負担経費区分が科学研究費である場合

（例） ── 継続できる場合 ──

同じ研究課題で申請者が替る時（所属部局に変更がないこと）。

この場合の申請項目欄は継続と氏名欄にチェックし、申請者を赤色で囲んで下さい。

── 継続できない場合 ──

同じ研究課題でも、人事異動のため所属部局に変更がある時。

同じ研究課題でも科学研究費である時。

(1) 継続申請の受付期間

2月16日（土）から3月30日（土）まで

（ただし、４月１日から利用する場合は、３月２３日（土）までに申請して下さい。）

(2) 継続申請の必要書類

イ．大阪大学大型計算機センター利用申請書

ロ．昭和５９年度計算機利用報告書

ハ。経歴書（教務員、研究生等のみ）

なお、「利用申請に係るコード表」の提出は不要です。

（注意） ３年を経過した継続申請書（課題番号下４桁2000 番台）は、新たに研究課題及び研究課題の具体的内容を記入して下さい。

(3) 提出先

所属の連絡所に提出して下さい。（吹田地区の方は直接利用者受付でも受付ます。）

継続申請は3月30日（土）までです！
継続申請されていない課題番号下にあるファイルは4月からは使用できません。

2。新規申請

(1) 新規申請の受付開始

2月16日（土）から

(2) 新規申請の必要書類

イ．大阪大学大型計算機センター利用申請書

ロ．大阪大学大型計算機センター利用申請に係るコード表（ＯＣＲ用紙）

ハ．経歴書（教務員、研究生等のみ）

(3) 提　出　先

所属の連絡所に提出して下さい。（吹田地区の方は直接利用者受付でも受付ます。）

3。共同研究者の申請について

共同研究者は、継続利用を認めておりませんので、課題申請者が継続申請されても、共同研究者は「新規」として、申請して下さい。

4。昭和59年度計算機利用申請の取り扱いについて

昭和５９年度の新規申請を**2月16日（土）**以後に申請される場合は、６０年度の新規申請と区別するため、赤色で ㊺ と明記のうえ、利用申請書を提出して下さい。この記入がない場合は、６０年度新規申請として、取り扱いますので御注意下さい。

5．昭和５９年度計算機利用報告書の提出について

利用者は、研究課題ごとに計算機を利用した結果、又は経過の報告書をセンターに提出することになっています。

利用報告書用紙に必要事項を記入のうえ４月末日までに本センター共同利用掛に必ず提出して下さい。

なお、継続申請される利用者は、継続申請時に計算機利用報告書を添えて提出して下さい。

カードロッカーの利用について

1．整理及び新年度の予約について

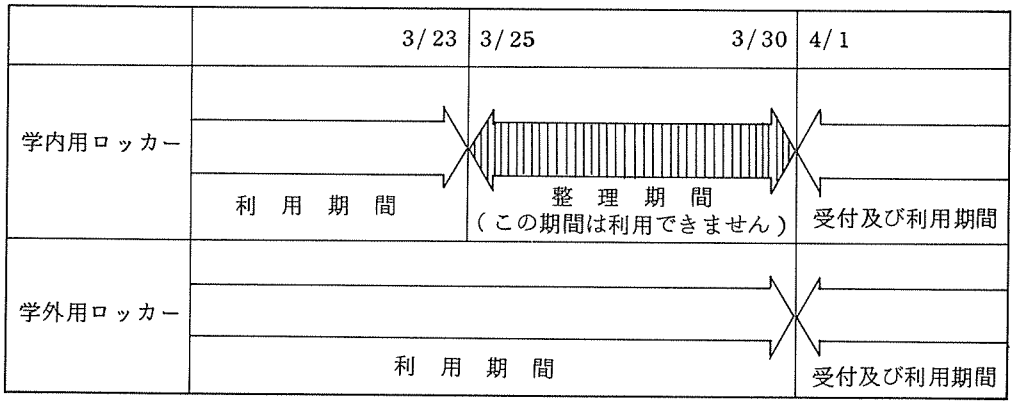
年度切替えに伴い学内用カードロッカーの利用者は、３月２３日（土）までに御手数でもカード等をお持ち帰り願います。

なお、期限を過ぎた場合は不要なものとみなし廃棄処分いたしますので十分御留意下さい。

６０年度の前期（４月～９月）の受付は、４月１日（月）より行いますので、希望者は利用者受付で手続きして下さい。（学外利用者の更新手続きについては、電話でも受付ます。）

できるだけ多くの人に使って頂くため、ロッカーの利用は１人につき１個に限ります。また、カードは指定された場所以外（ロッカーの上、床等）に放置しないように御注意願います。

カードの紛失等については、センターで責任を負いませんので御了承願います。



年度切替えに伴い、３月30日(土)は計算処理サービスが終日中止になりますので御了承下さい。

昭和 60 年度利用者講習会計画

月 日	時 間	タ イ ト ル	内 容	受講対象
5月15日（水）	10：40 ～ 12：00	システムの運用について	・センターの概要 ・センターの計算機システム ・サービス内容 ・その他	FORTRAN文法習得者で初めてセンターを利用するもの
	13：30 ～ 15：30	ジョブ制御言語について－FORTRAN77ジョブを中心に－	・ジョブについて ・アクティビティについて ・ジョブ制御言語の機能・規則の説明 ・使用例、利用者プログラム実行上の注意	〃
5月16日（木）	10：40 ～ 17：00	FORTRAN77について	・FORTRANの知識のある人を対象にACOSおよびHFPのFORTRAN77の文法とプログラミング技法について述べる。	FORTRAN文法習得者
5月17日（金）	13：30 ～ 16：00	FORTRAN77の使用法	・FORTRAN77ジョブを実行するうえでの a．コンパイラ・オプションの使用法 b．入出力技法 c．エラーの原因と対策について説明を行う。	〃
5月22日（水）	10：40 ～ 16：00	第1回TSSとファイルの利用方法について（講義）	・FORTRANの知識のある人を対象にTSSのコマンドとファイル（MDFを含む）の利用方法について説明する。	FORTRAN文法習得者で初めてTSSを利用する者
5月23日（木）	10：40 ～ 16：00	第1回TSSとファイルの利用方法について（実習）	・TSS端末の操作方法とコマンドを1人90分ずつ実習を行う。	5月22日の講義を受講した者

月　日	時　間	タ　イ　ト　ル	内　　容	受講対象
6月12日 （水）	13：30 ～ 17：00	XYプロッターの利用について	・自動作図装置を利用するためのサブルーチンの説明を行う。	FORTRAN文法習得者で初めてXYプロッターを利用する者
6月17日 （月）	10：40 ～ 16：30	第2回TSS とファイルの利用方法について（講義）	・FORTRANの知識のある人を対象にTSSのコマンドとファイル（MDFを含む）の利用方法について説明する。	FORTRAN文法習得者で初めてTSSを利用する者
6月18日 （火）	10：30 ～ 16：30	第2回TSSとファイルの利用方法について（実習）	・TSS端末の操作方法とコマンドを1人90分ずつ実習を行う。	6月17日 の講義を受講した者
7月　2日 （火）	13：30 ～ 16：00	グラフィックディスプレイ（N6922）	・グラフィックディスプレイの使用法を説明し、操作法を説明する。	TSSの習熟者でこれからグラフィックディスプレイを利用する者
7月　3日 （水）	10：40 ～ 16：30	スプール処理システムの利用について	・磁気テープの読み取り、作成 ・ファイルライブラリテープの作成、追加、復元 ・セーブテープの作成、復元 ・テープコピー ・フロッピーディスクのデータセットの入力、出力、コピーおよびデータセット上のジョブの実行 以上について説明と実習を行う。	初めてスプール処理を利用する者
6月上旬		Shape Up について		

昭和60年度研究開発計画の公募について

大型計算機センターの計算機システムは、これからも逐次拡充を図る予定です。ハードウェアはめざましい技術の発展と共に拡充されますが、ソフトウェアはセンターだけの力ではなかなか拡充できず、宝の持ち腐れともなりかねません。

研究開発計画は、広く利用者からセンターの計算機システムの利用に関して利用者に役立つもの、システムの運用に役立つものを募集します。

センターの利用資格者であれば誰でも応募できますので、次の要領によって応募されることを期待しています。

応　募　要　領

1．研究開発計画の対象

(1) 基礎及び応用プログラム開発に関するもの

(2) 計算機言語に関するもの（クロスコンパイラの開発など）

(3) 計算機利用に関するもの（各種のユーティリティ・プログラム作成など）

2．研究開発（データ・ベース）計画の対象

(1) 学術文献データベースに関するもの

(2) 各種実験データ、データベースに関するもの

3．研究開発（プログラム・ライブラリ整備）計画の対象

(1) プログラム・ライブラリの書き換え、改良及び、精度、信頼性の検定

などで、センターの計算機システムの利用に関して利用者に役立つもの、システムの運用に関して役立つものです。

4．応募資格

センター利用有資格者

5．応募方法

該当する研究開発計画申請書（共同利用掛にあります）を共同利用掛に提出して下さい。

昭和60年度プログラム相談員の募集について

センター内のプログラム相談室では、毎日一定時間内に、プログラム上の問題やセンター利用全般についての相談に応じています。十分なプログラム相談を行うには、毎年相当数のプログラム相談員が必要です。

センターでは、昭和６０年度のプログラム相談員を下記の要領で募集しますので御協力いただける方、われと思われる方は是非応募下さるようお願いいたします。

記

資　格：本センターの利用有資格者

期　間：昭和６０年４月～昭和６１年３月（前後期各々半年も可）

内　容：利用者からのプログラム相談員、当センターで週１回２時間（隔週でも可）

月 ～ 金	土
① １０：００～１２：００	① １０：００～１２：００
② １３：００～１５：００	
③ １５：００～１７：００	

待　遇：1. 利用負担金の一定額免除

イ．任期１年の方　１４万円相当（隔週担当の場合は７万円相当）

ロ．任期半年の方　　７万円相当（隔週担当の場合は3.5万円相当）

2. マニュアルを一定限度まで無償配布

3. プログラム相談室の端末の利用

4. ジョブの優先処理

応募方法：応募用紙が本センター、豊中ＤＳにありますので必要事項記入のうえ下記宛まで提出して下さい。

〒567　茨木市美穂ケ丘５番１号（阪大吹田団地内）

大阪大学大型計算機センター共同利用掛

〆　切：昭和６０年３月３０日

応募用紙の請求及び不明な点については、センター共同利用掛（ＴＥＬ　06－877－5111　内線2817）までお問い合せ下さい。

昭和60年度下半期プログラム相談室の担当表

昭和59年度下半期のプログラム相談室の担当は次のとおりですので、プログラム相談室を受けられる方は、2階のプログラム相談室で相談票に相談事項を記入のうえ御相談ください。

	10：00～12：00	1：00～3：00	3：00～5：00
月	氏名：青山　卓史 所属：阪大・工学部 専門：4，10 氏名：浜田　　糾 所属：阪大・基礎工学部 専門：4，8，10，11	氏名：青野　慎吾 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：浜　重一朗 所属：阪大・基礎工学部 専門：4，8，10
火	氏名：斉藤　善朗 所属：阪大・工学部 専門：4，10 氏名：西村　健二 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：鳩野　逸生 所属：阪大・工学部 専門：4，10 氏名：武市　博文 所属：阪大・工学部 専門：5，16	氏名：家本　　修 所属：阪大・工学部 専門：4，10，11，14，15
水		氏名：中富　英治 所属：阪大・工学部 専門：4，7，10，11	氏名：田中　明人 所属：阪大・薬学部 専門：4，10
木	氏名：佐々木良明 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：辻本　恵一 所属：阪大・工学部 専門：4，10 氏名：小野寺孝義 所属：阪大・人間科学部 専門：15	氏名：高木　達也 所属：阪大・薬学部 専門：4，6，10，11
金	氏名：多田　栄一 所属：阪大・基礎工学部 専門：4，10，11	氏名：武知　英夫 所属：阿南工業高等専門学校 専門：4，10，13	氏名：柳瀬　　章 所属：大阪府立大学 専門：4，6，10，11
土	氏名：山田　　稔 所属：阪大・工学部 専門：4，15		

	10：00～12：00	1：00～3：00	3：00～5：00
月	氏名：青山　卓史 所属：阪大・工学部 専門：4，10 ---------- 氏名：浜田　　糾 所属：阪大・基礎工学部 専門：4，8，10，11	氏名：青野　慎吾 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：浜　重一朗 所属：阪大・基礎工学部 専門：4，8，10
火	氏名：斉藤　善朗 所属：阪大・工学部 専門：4，10 ---------- 氏名：水野　　洋 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：鳩野　逸生 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：家本　　修 所属：阪大・工学部 専門：4，10，11，14，15
水		氏名：打浪　清一 所属：阪大・工学部 専門：4，5，10	氏名：田中　明人 所属：阪大・薬学部 専門：4，10
木	氏名：佐々木良明 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：辻本　恵一 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：高木　達也 所属：阪大・薬学部 専門：4，8，9，10，14
金	氏名：田中　直樹 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：北村　義弘 所属：阪大・工学部 専門：4，10	氏名：柳瀬　　章 所属：大阪府立大学 専門：4，6，10，11
土	センター職員		

専門分野

1. ALGOL
2. APL
3. COBOL
4. FORTRAN
5. LISP
6. PASCAL
7. PL/1
8. ファイル
9. 図形処理
10 TSS
11. 数値計算
12. アプリケーション
13. INQ
14. STATPAC
15. SPSS
16. GMAP

プログラム指導員について

プログラム指導員は、大口利用者を有する連絡所または、ジョブ処理件数の多い連絡所のうちで最も利用頻度の高い利用者に対してセンターから依頼し、承諾を得たものです。

遠隔地の利用者で、プログラムの相談等がありましたら、下表の各連絡所所属のプログラム指導員に相談してくださるよう御願いします。

プログラム指導員一覧表

氏　名	所属及び連絡先	身　分	プログラム指導曜日	場　所	内　　容
富永　昌二	大阪電気通信大学　工学部 精密工学科 〒 572 寝屋川市初町 18-8 Tel 0720-24-1131(253)	助教授	適　時	研究室	FORTRAN
平野　俊雄	高松工業高等専門学校 機械工学科 〒 761 高松市勅使町 355 Tel 0878-67-0276	助教授	適　時	研究室	FORTRAN
西田　修身	神戸商船大学　商船学部 機関学科 〒 658 神戸市東灘区深江南町 5丁目1番1号 Tel 078-453-2332(330)	助教授	適　時	研究室	FORTRAN
土井　光暢	大阪薬科大学　薬学部　薬学科 〒 580 松原市河合2丁目 10番 65号 Tel 0723-32-1015(298)	助　手	毎週月～金曜日 午　前	研究室	FORTRAN
小川　喜弘	近畿大学原子炉工学科 〒 577 東大阪市小若江 3-4-1 Tel 06-721-2332	助　手	適　時	研究室	FORTRAN

氏　名	所属及び連絡先	身　分	プログラム指導曜日	場　所	内　　容
村上　益美	大阪市立大学　工学部 建築学科 〒558 大阪市住吉区杉本3丁目3番138号 Tel 06-692-1231(3437)	助　手	毎週木曜日 午　後	研究室	FORTRAN
長瀬　久明	兵庫教育大学 情報処理センター 〒673-14 兵庫県加東郡社町下久米942-1 Tel 07954-4-1101(466)	助　手	適　時	研究室	FORTRAN
平井　國友	奈良県立医科大学　医学部 医学科 〒634 橿原市四条町840 Tel 07442-2-3051(2270)	助　手	毎週木曜日 午　後	研究室	FORTRAN
山田　勝稔	徳島大学工業短期大学部 生産機械工学科 〒770 徳島市南常三島町2の1 Tel 0886-23-2311(5313)	助教授	適　時	研究室	FORTRAN
柳瀬　　章	大阪府立大学　総合科学部 総合科学科 〒591 堺市百舌鳥梅町4丁804 Tel 0722-52-1161(2714)	教　授	毎週水曜日 午　後	研究室	FORTRAN
越桐　国雄	大阪教育大学　教育学部 物理教室 〒543 大阪市天王寺区南河堀町4番88号 Tel 06-771-8131(230)	助　手	適　時	研究室	FORTRAN
近藤　敬一	阿南工業高等専門学校 電気工学科 〒774 阿南市見能林町青木265 Tel 0884-22-2010(361)	助教授	適　時	研究室	FORTRAN

氏　名	所属及び連絡先	身　分	プログラム指導曜日	場　所	内　　容
浅田　昌三	神戸女子薬科大学　薬学部 薬学科 〒 658 神戸市東灘区本山北町 4-19-1 Tel 078-453-0031(201)	教　授	適　時	研究室	FORTRAN
堂垣　正博	関西大学　工学部 土木工学科 〒 564 吹田市山手町 3-3-35 Tel 06-388-1121(5682)	講　師	適　時	研究室	FORTRAN
古谷　博史	高知医科大学　情報処理部 〒 781-51 南国市岡豊町小蓮 Tel 0888-66-5811	助　手	適　時	研究室	FORTRAN PL/I
馬場口　登	愛媛大学　工学部　電子工学科 〒 790 松山市文京町 Tel 0899-24-7111(3746)	助　手	適　時	研究室	FORTRAN
杉山　司郎	大阪工業大学　工学部 機械工学科 〒 535 大阪市旭区大宮5丁目 16番1号 Tel 06-952-3131	講　師	毎週月曜日午前中、火曜日終日	研究室	FORTRAN
佐藤　一郎	四国女子大学短期大学部 家政科 〒 771-11 徳島市応神町古川 字戎子野 123 の 1 Tel 0886-65-1300(118)	講　師	適　時	研究室	COBOL
太田　雅久	甲南大学　理学部　物理学科 〒 658 神戸市東灘区岡本8丁 目9番1号 Tel 078-431-4341(283)	助教授	毎週火曜日 金曜日	研究室	FORTRAN

大型計算機利用に伴う利用者旅費について

利用者が、大型計算機センターを利用する場合、地域差を少なくするため遠隔地利用者には、利用者旅費支給の制度があります。これは、大型計算機センターに出張して計算機を利用する場合に旅費を支給する制度です。

利用者で旅費の支給を希望する場合は、下記要領によりセンター所定の申請書を提出してください。（大学院生及び科学研究費による利用者には旅費を支給できません。）

記

○日帰り旅行…第５，第６地区で京阪神地区の利用者（注参照）は、日帰り旅行申請書を利用希望日の前月２５日（必着）までに本センター共同利用掛まで提出して下さい。（日帰り出張回数は、１人当り月５回以内とします。）

○宿泊を伴うもの…京阪神地区以外の利用者は、申請書を利用希望日の前月２５日（必着）までに本センターに到着するように所属連絡所及び所属地区協を通じて提出して下さい。（センター滞在日数は、３日以内で月１回に限ります。）

○旅費は、後日、銀行振込みにより送金します。

○出張利用に関する問い合わせは、センター共同利用掛（０６－８７７－５１１１　内線２８１５）までお願いします。

(注)京阪神地区の利用者（日帰り旅行適用者）は次の連絡所に所属する者

（第６地区）大阪府下の全連絡所

奈良県下　〃

兵庫県下（姫路工業大学、兵庫教育大学は宿泊の対象となる）の全連絡所

和歌山県下（和歌山高専は宿泊の対象となる）の全連絡所

（第５地区）京都府下（舞鶴高専は宿泊の対象となる）の全連絡所

滋賀県下（滋賀大学（彦根市）、滋賀県立短大は宿泊の対象となる）の全連絡所

注意事項　申請書の記入の際、次の点に御留意願います。
申請者の出張利用の理由欄には、特に本センターへ出張して計算機を利用しなければならない出張理由を具体的に記入して下さい。出張理由が明確でない場合、出張を認めませんので御了承願います。

アプリケーションプログラム（半経験的分子軌道法；MNDOA）のサービス開始について

昭和６０年２月１８日より、「半経験的分子軌道法プログラム（名称MNDOA）」のサービスを開始します。このプログラムの概要および使用法については、センターニュース本号に掲載されている「研究開発計画の成果」*)を参照して下さい。

MNDOAはACOSシステム１０００のバッチ処理およびTSS処理で使用可能であり、実行形式プログラムで利用者に提供されているので、基本的には利用者は入力データだけを与えれば結果を得ることができます。プログラムの中では出力用のファイルコード（装置番号）として、01, 02, 04, 07, 08が使用されています。これらをパーマネントファイルに保存したい場合は、バッチ処理では$PRMFL文で、TSS処理ではGETコマンドであらかじめ指定しておく必要があります。これらの指定のない場合は、プログラムの中で一時ファイルが自動的に作成されます。

パーマネントファイルに登録されているテストデータ（ファイル名LIBSOURCE/APPLIC/MNDOATD）は、バッチ処理では下記のようにして実行できます。以下の例ではファイルコード08で出力されるものだけをパーマネントファイル（ファイル名OUT8）に保存する場合を想定しています。

○テストデータの実行例（バッチ処理）

```
$      JOB      0000000000$pass-word,job-class
$      CPROC    MNDOA,,1,,,5000
$      PRMFL    05,R,S,LIBSOURCE/APPLIC/MNDOATD
$      PRMFL    08,W,S,0000000000/OUT8
$      ENDJOB
```

'0000000000'は利用者の課題番号、'pass-word'はパスワード、'job-class'はジョブクラスを示します。$CPROC文は、アプリケーションプログラム名および$LIMITS文の指定に相当するものです。ここでは実行時のCPU時間を36秒、出力記録数を5000としています。

＊）佐々木、他：研究開発計画の成果；半経験的分子軌道法プログラムMNDOの改良と整備、大阪大学大型計算機センターニュース，Vol. 14，No. 4，1985.

統計パッケージ「SPSS-X」のサービス開始について（再掲載）

12月1日（土）より統計パッケージ「SPSS－X　リリース1.0」が利用できるようになりました。この「SPSS－X」はSPSS第9版を基に機能・使用法が大幅に改訂されたもので、第9版より変数の数、ケース数、ファイルの取り扱い、その他でかなり使い易くなっております。但し、使用法は第9版とはかなり異なっておりますので、使用される前には必らず参考文献①をご覧ください。なお、SPSS第9版については従来どおり利用できます。

(1)　「SPSS－X」呼び出しジョブ制御文

$CPROC文で"SPSSX"を指定する。

```
カラム　1　8          16
$ CPROC SPSSX,,CPU-T,MEM1,MEM2,SYSOUT
```

リソースの既定値はCPU時間36秒、メモリサイズ240KW，出力行数5000行となっています。既定値の変更は$CPROC文の第3パラメータ以降あるいは$LIMITS文で行ってください。

(2)　利用できる機能と制限事項

SPSS－Xリリース1.0で提供されている機能の中で現在利用できない機能があります。また、最初から提供されない機能もあります。

①　利用できる機能

ADD FILES, BEGIN DATA, BREAK, COMMENT, COMPUTE, COUNT, DATA LIST, DISPLAY, DOCUMENT, DO IF, EDIT, ELSE IF, ELSE, END IF, END CASE, END DATA, END FILE, END INPUT PROGRAM, END LOOP, EXECUTE, FILE HANDLE, FILE LABEL, FILE TYPE MIXED, FILE TYPE GROUPED, FILE TYPE NESTED, FINISH, FORMATS, GET, IF, INFO, INPUT MATRIX, INPUT PROGRAM, LEAVE, LIST, LOOP, MATCH FILES, MISSING VALUES, N OF CASES, NUMERIC, NUMBERED, OPTIONS, PRINT, PRINT EJECT, PRINT FORMATS, PRINT SPACE, PROCEDURE OUTPUT, RECODE, RECODE TYPE, REFORMAT, REPEATING DATA, REREAD, SAMPLE, SAVE,

SELECT IF, SET, SHOW, SORT CASES, SPLIT FILE,
STATISTICS, STRING, SUBTITLE, TEMPORARY, TITLE,
UNNUMBERED, VALUE LABELS, VARIABLE LABELS, VECTOR,
WEIGHT, WRITE, WRITE FORMATS,

② 利用できるサブプログラム

AGGREGATE, ANOVA, BOX-JENKINS, BREAKDOWN, CONDESCRIPTIVE,
CROSSTABS, DISCRIMINANT, FACTOR, FREQUENCIES, LOGLINEAR,
MANOVA, MULT RESPONSE, NONPAR CORR, NPAR TESTS, ONEWAY,
PARTIAL CORR, PEARSON CORR, REGRESSION, RELIABILITY,
REPORT, SCATTERGRAM, SURVIVAL, T-TEST,

③ 使用が制限されている機能

次の機能は提供が予定されていますが、現在利用できません。利用可能となりしだいお知らせいたします。

DATA LIST FILE=..., DO REPEAT, END REPEAT, EXPORT,
IMPORT, PRINT FORMATS(RBHEX), WRITE OUTFILE=...,

④ 提供される予定のない機能

○SCSSファイル(SAVE SCSS, GET SCSS)

○SPSS Graphicsオプションの全て

SCSSとGraphicsに関しては最初から提供される予定がありません。Graphics に関してはSPSS第9版から追加された大きな機能であり、組み込むことを申し入れていますが、現在提供される目途はたっていません。

⑤ 変数の数の制限

SPSS−X Users Guideに書かれてある以外の制限はありませんが、現在、日本電気から提供されている版(R 1.01)ではサブプログラムによって変数の数が100個程度になると、作業領域不足となり実行できない場合があります。この場合は変数の数を少なくして実行してください。60年3月末に修正版が提供される予定です。

(3) ファイル使用上の注意

ファイルを使用するときは、FILE HANDLEコマンドとファイル(ファイル定義ジョブ制御文)との対応づけが必要となります。

① FILE HANDLEコマンド

ファイルを使用するときには、FILE HANDLEコマンドが必須となります。ACOS−6上でのFILE HANDLEコマンドの形式は次のとおりです。

FILE HANDLE handle/subcomand =▼value▼

handle ：SPSS−Xジョブ中でファイルを識別するための英字で始まる8文字以内の任意の英数字。

subcomand ：NAME＝▼value▼ を指定する。valueは任意の英数字。ACOS−6システムでは特に意味のあるものではないが、SPSS−X の実行上指定する必要がある。

例 FILE HANDLE BALLOONS/NAME＝▼BALL DATA A▼

② FILE HANDLEコマンドとファイル定義ジョブ制御文

GET, SAVE, その他でファイルを使用するときは、FILE HANDLEコマンドとファイル定義ジョブ制御文とを使用してファイルの対応づけを行います。

ファイル定義文に指定するファイルコードは“07”,“11〜28”と決められており、最初に定義されたFILE HANDLEコマンドのファイルがファイルコード“07”に、次に定義されたFILE HANDLEコマンドのファイルがファイルコード“11”に、と順番にFILE HANDLEコマンドとファイルコードが対応づけられます。

例

```
$       CPROC   SPSSX
$       PRMFL   07,R,S,kadaibango/data1
$       PRMFL   11,W,S,kadaibango/data2
FILE HANDLE test1/NAME="dummy1"          ————ⓐ
FILE HANDLE test2/NAME="dummy2"          ————ⓑ
GET FILE=test1                           ————ⓒ
     ・
     ・
SAVE OUTFILE=test2                       ————ⓓ
```

ⓐ 1枚目のFILE HANDLEコマンド“test 1”がファイルコード07に対応づけられ、ファイルdata 1が割り当てられる。

ⓑ 2枚目のFILE HANDLEコマンド“test 2”がファイルコード11に対応づけられ、ファイルdata 2が割り当てられる。

ⓒ GETコマンドのFILEサブコマンドで1枚目のFILE HANDLEコマンドの

“ test 1 ”を指定しているので、data 1のファイルからデータが入力される。

ⓓ SAVEコマンドのOUTFILEサブコマンドで2枚目のFILE HANDLE コマンドの“ test 2 ”を指定しているので、data 2のファイルへ出力される。

なお、SPSS第9版とのファイルの互換性はありませんので、第9版でSAVEしたファイルをSPSS−XでGETすることはできません。

(4) 使用例

```
$       JOB      kadaibango$password,A,MAIL,R
$       CPROC    SPSSX
$       PRMFL    07,R,S,kadaibango/data1
$       PRMFL    11,W,S,kadaibango/data2
TITLE  BANK EMPLOYMENT STUDY
SUBTITLE TRAINING SPSS-X
FILE HANDLE BANK/NAME="BANK SPSSXSF A"
FILE HANDLE BANK2/NAME="TEST"
GET FILE=BANK
DO IF AVGRAISE GT 300 OR AVGRAISE LT 30
PRINT    / ID  ' BEG:' SALBEG  ' NOW:' SALNOW  ' MONTHS: ' TIME
           'RAISE:' AVGRAISE  ' JOBCAT: ' JOBCAT
END IF
FREQUENCIES  VARIABLES=SALBEG SALNOW AVGRAISE/
             FORMAT=NOTABLE/ STATISTICS/ HISTOGRAM/
BREAKDOWN    TABLE=SALBEG SALNOW AVGRAISE BY MINORITY BY SEX
SAVE OUTFILE=BANK2
FINISH
$       ENDJOB
```

(5) 参考文献

① SPSS−X User's Guide, SPSS Inc., 1983 McGraw-Hill

② SPSS−X Introductory Statistics Guide M. J. Norusis, 1984, McGraw-Hill

③ SPSS−X Advanced Statistics Guide, M. J. Norusis, 1984, McGraw-Hill

④ 家本：SPSSについて その2，大阪大学大型計算機センターニュース，Vol. 14 No. 3 (1984)

①，②については図書資料室に備えてあります。③については注文中です。

（システム管理掛）

利用負担金の改定について（再掲載）

1月1日から、次のとおり利用負担金額の一部が改定されますのでお知らせします。
なお、その他の負担金については従来どおりです。

区分		現行	改定後
演算負担額	バッチ処理	ＣＰＵタイム１秒につき５円とする。ただし、計算依頼１件のうち３００秒を超える部分については、１秒につき３円、９００秒を超える部分については、１秒につき１円とする。	ＣＰＵタイム１秒につき５円（高速フォートランプロセッサの利用に係る場合は６円）とする。ただし、計算依頼１件のうち３００秒を超える部分については、１秒につき３円、９００秒を超える部分については、１秒につき１円とする。
	ＴＳＳ処理	ＣＰＵタイム１秒につき５円	ＣＰＵタイム１秒につき５円（高速フォートランプロセッサの利用に係る部分は６円）
使用負担額	ＬＡシステム	使用時間１分につき１０円	使用時間１分につき５円